

1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	岡山県立岡山操山中学校	実践者名	西澤 寛
教科	外国語	学年	第2学年
活用内容	検索	実践日	令和3年10月28日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 1
単元・内容等	「Research Your Topic」(New Horizon) 日常的な話題や社会的な話題について書かれた英文を読み、読んだことを基に感想や意見を、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。		

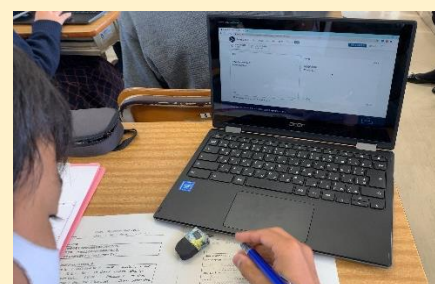
活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)

- (1) 既習事項を確認し、本時のめあてをつかむ。
 ・ 既習表現や文法を確認し適切に表現できるように促す。

- ・ 自分の考えや意見を理由を添えて伝え合おう。
- ・ 3往復以上やりとりを継続させよう。
- ・ 使える表現を増やそう (1st→2st→3st)



- (2) 友達と「やり取り」をする。
- ① 前時のワークシートを確認する。
 - ② トピック (英文) を読む。
 ・ 英文を黙読する際、未習の単語があっても前後のつながりから概要をとらえるよう伝える。
 - ③ 概要をペアで確認する。
 - ④ 自分の考えや意見のメモを英語でワークシートに記入する。
 - ⑤ ペアで「やりとり」をする。
 - ⑥ 「やりとり」の中で、伝えなかったけれど分からなかった単語や表現を Chromebook で検索して調べる。
 (「DeepL」や「Google 翻訳」等を活用)
 ※⑤⑥を異なるペアで3度繰り返す。
 - ⑦ 自分の考えや意見を英文で書く。
 - ⑧ クラスで発表する。



- (3) まとめと振り返りを行う。

「やり取り」をする中で、生徒は「相手に伝えたいけど分からない単語や表現」が出てくる。その場面に限定し「Dictionary time」として、端末を活用し、単語や表現を調べさせた。このことで、生徒は「やり取り」を重ねる度に表現の幅が広がっていった。(指導主事より)

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
何を言っていていか分からなかった表現を調べ、すぐにもう一度使うチャンスを与えることで、対話の中での成功体験をもって語彙や表現の獲得ができたと思います。	(生徒から) 端末を活用すると、短時間でもすぐに単語や表現を調べられて、とても便利だ。「やり取り」を重ねる度に、使える表現を増やすことができてうれしかった。